

---

## サー・ジョン・ギールグッドを名誉会長に迎えて

荒井良雄  
(日本ワイルド協会会長)

日本ワイルド協会創立20周年を来年にひかえ、1993年度を期して、ワイルド喜劇の上演で演劇史に残る仕事をしたイギリス最高の芸術家サー・ジョン・ギールグッド (Sir John Gielgud) を名誉会長に迎えるにあたり、秋の学会の会場となった駒沢大学の耕雲館で、「サー・ジョン・ギールグッド展」を開催した。そのときのパンフレットに書いた記事を採録して、紹介の言葉としたい。

サー・ジョン・ギールグッドは、1904年4月14日にロンドンで生まれた。今年90歳になったイギリスが世界に誇る最長老にして人間国宝的な舞台芸術家である。1921年にオールド・ヴィック劇場で初舞台を踏んで以来、演劇を中心に70年以上の芸術活動が続けている世界でも希有な俳優であって、ハムレット、リチャード二世、リア王、プロスペローなどの名舞台で、今世紀の代表的なシェイクスピア俳優としての名声を確立したほか、ワイルドの喜劇『まじめが大切』のジャック・ワーキング役でも画期的な名演技を見せた。舞台演出家としてもリチャード・バートンの『ハムレット』など話題作が多い。映画ではシェイクスピア作品への出演、『プロビデンス』などの主演、『炎のランナー』の助演など数限りなく、『ミスター・アーサー』(1981)でアカデミー助演賞を受けた。ラジオやテレビの出演も枚挙に暇がないほどある。朗読家としてはシェイクスピア、ロマン派の詩人、ディケンズ、ルイス・キャロル、ワイルドなどの英文学史上の代表作をSP、LP、カセットテープ、CDに録音した。著作家としては自伝のほか演劇論など5冊以上の本を出版、評論家や研究者によるギールグッド研究書も5冊を越えた。こうした超人的な芸術活動が高く評価されて、イギリスはもとよりフランスやアメリカなどから様々な賞が贈呈され、1953年にはオックスフォード大学から名誉博士号が贈られた。国際シェイクスピア学会名誉会長、国際シェイクスピア・グローブ・センター名誉会長でもある。日本ワイルド協会名誉会長就任にあたり、大会の挨拶にかえてワイルドの芸術至上主義宣言として有名な『ドリアン・グレイの肖像』の序文全文の朗読をカセットテープに録音していただき、秋期大会の開会の挨拶として公開した。

世界唯一のワイルド協会の国際性が、これで確固たるものになったと言えよう。

(駒沢大学教授)

---